

事業コード	0020101	政策コード	02	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略						
事業名	白神山地利活用推進事業	施策コード	02	施策名	秋田米を中心とした水田フル活用の推進						
		指標コード	01	施策目標(指標)名	売れる米づくりの推進と秋田米ブランドの再構築						
部局名	生活環境部	課室名	自然保護課	班名	調整・自然環境班	(tel)	1613	担当課長名	高松 武彦	担当者名	菊池 崇文

**評価対象事業の内容**

事業年度 平成26年度 ~ 平成28年度

1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか)  
 白神山地はブナ林を主とした森林生態系が世界的に類い稀な価値があると認められて、日本で初めての世界自然遺産となった。平成25年度に改定された「白神山地世界遺産地域管理計画」に基づき、各種のモニタリング調査結果を反映した順応的管理を行い、世界遺産地域を将来にわたって保全していくとともに、白神山地の素晴らしさや価値を環境教育等で県民等に伝え、自然体験等を通じて適切に利活用していくことが必要である。

1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点  
 世界遺産の価値と魅力を来訪者に伝え、白神山地の自然環境を保全する役割を担う白神ガイドが高齢化し、遺産地域に精通した人材が減少している。このままでは、遺産地域の保全管理等にも支障が生じると懸念される。また、秋田側の白神山地の散策スポットへのアクセス道が災害等で度々不通となるため、新たな散策コースの開設が必要とされている。

5. 前回評価における指摘事項等	
指摘事項	
指摘事項への対応	

2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの)  
 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 ( 時期: H28年 01月 )  
 満足度の把握方法  
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット  
 その他の手法 ( 具体的に 関係者による意見交換会 )  
 満足度の状況  
 白神山地を環境教育の場として有効に利活用して欲しいという意見が多く寄せられた。また、地元ガイド団体などから、白神山地の核心地域などを巡視・案内できる人材がほとんど居なくなっているため、人材育成が急務であると要望が寄せられている。

6. 事業の内容  
 事業概要及び推進状況  
 白神山地の世界遺産としての価値や魅力を環境教育や自然体験等を通じて伝え、白神山地を適切に利活用するための取組を実施した。事業としては、小学生を対象とした自然体験教室、白神山地の散策ルートや登山ルート開設に向けた調整、白神ガイドを育成するための取組等を推進した。

3. 事業目的( どういう状態にしたかったのか )  
 白神山地が環境教育の場として適切に利用され、県民等にその素晴らしさや価値を伝えることができているほか、白神山地を巡視・案内できる人材が増え、自立した活動として世界遺産のガイドなどを行うことができる状態にする。

事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
平成26年度		1,275	1,198
平成27年度		6,405	6,231
平成28年度		8,892	8,588
<b>事業費計</b>		16,572	16,017
財 源 内 訳	国庫補助金		
	県 債		
	そ の 他	5,083	4,546
	一 般 財 源	11,489	11,472

4. 目的達成のための方法  
 事業の実施主体  
 県  
 事業の対象者・団体  
 県民、県外からの観光客  
 達成のための手段  
 白神山地の自然に接する機会の少ない、県央・県南地区の小中学生を対象とした自然体験教室の実施。新しい散策コース等の開設に向け、関係機関と連携して調査・協議。世界遺産核心地域内のパトロールや調査等の案内にも対応できるガイドを育成するため講習会を開催。また、白神ガイドの認定制度の設立に向けた関係者による検討委員会を開催。

当初計画及び最終の事業費比較  
 最終事業費 / 当初計画事業費 =( 0.97 )

7. 事業の効果及び課題の改善状況  
 世界遺産である白神山地の環境教育を通じて、次世代を担う子ども達に自然保護に対する意識を高めるきっかけを与え、白神山地の魅力に目を向けてもらうことができた。また、白神山地の散策ルートや登山ルート開設に向けた調整や、白神ガイドを育成するための取組を推進し、白神山地を将来にわたって守り伝えるための取組を行った。

8. 事業の効果을把握するための手法及び効果の見込み

指標名	自然体験教室参加児童数								指標の種類
指標式	自然体験教室参加児童数								成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体	
目標a					90	90	80		
実績b					87	88	68		
b/a					96.7%	97.8%	85%		
データ等の出典	県主催の自然体験教室の参加者数								
把握する時期	当該年度中 03月		翌年度 月		翌々年度 月				

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体	
目標a									
実績b									
a/b									
データ等の出典									
把握する時期	当該年度中 月		翌年度 月		翌々年度 月				

指標を設定できなかった場合の効果の把握方法  
 指標を設定できなかった理由  
 成果(見込まれる効果)

所管課の評価				評価結果	
有効性の観点	住民満足度の状況	a	b	c	A B C
	【b又はcの場合の分析】				
	事業の効果	適用の可否 可 不可			
	a 達成率100%以上	b 達成率80%以上100%未満	c 達成率80%未満		
	【b又はcの場合の理由】				
	夏期の自然体験教室について、1回目、2回目の募集では、定員を上回る申し込みがあったが、3回目の募集では、開催時期や天候等の要因により募集定員を下回ったものである。				
効率性の観点	事業の経済性の妥当性	適用の可否 可 不可			評価結果 A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	a 1.0~	b 0.8~1.0	c ~0.8		
	$\left[ \frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[ \frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$				
	【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】				
	本事業は、複数の事業内訳があり、年度ごとに必要に応じて事業内容を拡充、削減していることから、全体事業費の決算額と各年度の効果指標を単純に比較することはできない。				
総合評価	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)				
	人材育成や環境教育等の成果が現れるまで、息の長い取組が必要である。特に、遺産地域に精通した高い技術を有した白神ガイドの育成は、世界遺産の適切な利活用を推進するためには、必要不可欠であり、次年度以降、認定ガイド制度の運用に向けて取組を行っていく必要がある。				
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)					
政策評価委員会意見					

## 終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

## (1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		B:有効性はある (1~3点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	3		B	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	1		B
						1次	2次

(注) 事業経済性の算定式

$$\left( \text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費} \right) / \left( \text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

## (2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		